美しい夕日に誘われて

夕日の海廊in福津　福津バル×商と光の祭典

絶景と地域商業の魅力を掛け合わせたイベント「夕日の海廊in福津　福津バル×商と光の祭典」が、海岸エリアから光の道エリアにかけて開催されました。商と光の祭典は10月10日に、福津バルは10月10日と10月11日の2日間開催されました。

福津バルにはマリンスポーツ・体験部門とバル部門、イベント部門があり、マリンアクティビティや飲食、海辺での音楽イベントや映画鑑賞などの催しが充実。参加者たちは日中から夜にかけて、思い思いに海辺での時間を楽しんでいました。

初開催の商と光の祭典では、宮地嶽神社から海岸沿いまでに地域の商店が集いました。宮司コミュニティセンターでの音楽ライブや道沿いに並んだキッチンカー、体験・ゲームコーナーなど、地域の事業者と市民や観光客などが交流する空間が生まれていました。


▲福間海岸で食べ歩きを楽しむ参加者たち

にぎわいを生む 秋の風物詩

ふくつフェスティバルinイオンモール福津

福津の秋の風物詩「ふくつフェスティバルinイオンモール福津」が10月3日と10月4日の2日間開催されました。

当たりくじ付きの餅まきを皮切りに始まったステージイベントでは、福間東中学校吹奏楽部の演奏や、人気のヒーローショーなどのパフォーマンスが披露されました。

また、輪投げやかんな削りなどのコーナーやキッチンカーなど、多数の出店でにぎわう秋祭りのような会場の雰囲気を、多くの親子連れが楽しんでいました。



▲大勢の来場者でにぎわった餅まき

季節外れの暑さの中で

第12回プリンセス駅伝in宗像・福津

女子駅伝の日本一決定戦「クイーンズ駅伝」の出場権をかけた予選会「第12回プリンセス駅伝in宗像・福津」が10月18日に開催されました。

宗像ユリックスを発着点に、福津市を経由するコースに、全国から集まった全30チームの実業団が挑み、白熱したレースが展開されました。見事優勝を果たしたルートインホテルズを含む上位16チームがクイーンズ駅伝への出場権を獲得。各チーム、最後まで力を振り絞り、タスキをつないでいました。


▲沿道からの声援を受けながら宮ノ元交差点を駆け抜ける選手たち

市公式インスタグラム
https://www.instagram.com/fukutsucity/

こちらから記事の動画が視聴できます

津屋崎に響く音楽

音楽散歩

▼動画はココ

津屋崎千軒の町屋や古民家を演奏会場としてさまざまなジャンルの音楽を聴くことができるイベント「音楽散歩」が10月12日に開催されました。

津屋崎中学校吹奏楽部によるパレードから始まり、藍の家や王丸屋、豊村酒造、旧河野邸の4つの会場と野外ステージで、すてきな音楽が鳴り響きました。

豊村酒造で韓国発のジャズユニットの演奏を聴いた来場者は「すてきな会場にジャズの雰囲気が合っていてとても良かった」と話していました。


▲王丸屋や豊村酒造などの歴史ある建物の中で音楽を披露

企業版ふるさと納税に感謝状

株式会社マルホウから100万円の寄付

「地域資源を生かした魅力あるしごとづくり事業」を対象として株式会社マルホウから100万円の寄付（企業版ふるさと納税）をいただき、10月1日に感謝状の贈呈式を行いました。

株式会社マルホウの村田さんは「マリンレジャーを盛り上げていきたい」「福津市のまちづくりに一緒に取り組めたら」と話していました。



▲感謝状を掲げる村田さん（左）と市長

労働環境の改善に生かして

ハイアールジャパンセールス株式会社と連携協定を締結

家電製品などを展開するハイアールジャパンセールス株式会社と、10月23日に連携協定を締結し、製品の寄贈を受けました。

乾修明副社長は「今回の寄贈は小学校、幼稚園、保育所の労働環境改善が目的。労働環境が良くなることで子どもたちの教育環境も良くなる。住みやすいまちに貢献できれば」と語っていました。



▲協定書を掲げる乾さん（左）と市長

～読者の皆さんから寄せられた市内の出来事や旬の話題をお届け～

街角カメラリポート

福津市にあった、本木銅山を訪ねて

今回は広報ボランティア土肥保見さんからの投稿です

ほたるの里駐車場から歩いて約2㎞のところにある本木銅山跡を訪ねてみました。

6年ほど前に訪れたときは、銅山入り口の坑道がポッカリと開いていたのですが、土砂崩れで埋まってしまい、坑道が見えなくなっていました。この本木銅山の歴史を調べてみると、明治22年から昭和28年ごろまで採鉱していたようです。

当時の運搬は、鉱石を袋に入れ、ソリで砂防堰（えん）の所まで引き降ろし、荷馬車に積んで津屋崎の波止場まで運んでいたとのこと。坑道内を、100 ～ 130mほど進むと、大きな穴が下に空いていて、そこに丸太の橋が落ち込んでいたそうです。

「古賀市の清滝まで坑道が続いているのではないか」「掘り手が約45人で、この周辺には飲食店もあった」などという記録もありましたが、どのくらいの量の鉱石を運んだのかは読み取れませんでした。また機会があれば、もっと調べてみたいものです。


▲現在の銅山跡。左奥に坑道跡がある

帰りを信じて待つ時間も「男のロマン」

地区ナショナルレースで九州1位

「帰ってきたら震えました」。待ちわびた鳩を迎え、思わず頬ずりした吉田武洋さん。2026年地区ナショナルレース(九州ブロック連盟・700~800㎞)で、参加した1298羽の頂点に立ち、総合優勝を飾りました。

富山県から一斉に飛び立ち、それぞれの鳩舎を目指す鳩たち。当日は向かい風と濃霧に見舞われましたが、吉田さんの鳩は厳しい条件を乗り越え、帰ってきました。快挙を支えたのは、日々の飛行訓練と、丁寧な世話。約11時間の飛行を支える、強靭な体を育ててきました。

高校生のときに初優勝を経験し、約50年の中断を経て再開した鳩レース。「82歳になって最高の喜びでした」と、再びつかんだ栄冠を喜びます。愛好家の高齢化が進む中「若い人たちにも、ぜひ広げたい」と願う吉田さんの情熱は、今も空へと向かっています。



▲鳩とともにトロフィーを掲げる吉田さん

▲この記事は、MKさんから投稿いただきました。

大自然で野外炊飯

親子体験活動事業

▼動画はココ

大峰山自然公園内にあるFUKUTSU Outdoor Base 大峰山で、10月4日と10月10日に「家族みんなでアウトドアクッキング」が開催され、計14組の親子が参加しました。

参加者は一般社団法人スペース石蕗の指導を受けながら、竹で飯ごうを作ったり、割ったままで火を起こしたりして竹筒ご飯を調理。親子で協力しながら慣れない作業に挑戦し、完成したご飯の香りと味を楽しんでいました。食後には焼きマシュマロも味わい、自然の中で多くの経験を得る一日となりました。



▲竹の飯ごう作りをする参加者と講師

世界遺産の価値を国内外に

英国セインズベリー日本藝術研究所と協定締結

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会と英国セインズベリー日本藝術研究所との協定締結式が10月4日に宗像大社で行われました。両者は、世界遺産登録活動時から相互に協力してきましたが、今回の協定締結で、その関係性がさらに強まることになります。

また、英国セインズベリー日本藝術研究所のサイモン・ケイナー統括役所長・考古・文化遺産センター長などの記念講演やパネルディスカッションが開催され、世界遺産の価値を国際的に共有する方法などについて意見が交わされました。



▲協定書を掲げるサイモン・ケイナーさんと服部誠太郎県知事